

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590600114		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイのほほえみ防府		
所在地	山口県防府市敷山町14-1		
自己評価作成日	平成22年6月15日	評価結果市町受理日	平成22年9月22日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年7月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ほほえみ防府の理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほほえみ(笑顔)を絶やさずケアを提供する。 ・穏やかに過ごせる環境を提供する。 ・地域と協力し、安全・安心を提供する。(2009年1月30日)を信条として入居者おひとりおひとりの心身の状態と個々の生活歴を尊重した、なじみの生活環境作りに配慮し、住み慣れた地域の中で家庭的な雰囲気の下、スタッフと共に調理や洗濯など役割を持って日常生活を継続できるよう支援いたします。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>毎月の拠点会議で職員の意見を聞かれる他に、個人面談を実施され管理者やユニットリーダーが意見や要望を聞く機会を設けられており、職員の気づきやアイデアを運営に反映しております。職員は幅広い年代や男性、女性の人がおられ、職員間のコミュニケーションが図られ、利用者と職員との関係も和やかで、利用者は穏やかに過ごされています。事故発生時の備えとして、全職員参加で介護現場で役に立つ救急救命法を2時間かけて学び、訓練され、実際の場面で活かせる技術の習得に努めておられます。今後も継続して実施していかれる予定があり、職員の意識の持ち方の変化や向上となり、利用者の安心、安全にもつながっています。「子ども110番」として事業所を開放しておられ、小学生が学校帰りにトイレを借りに立ち寄りすることもあり、利用者で交流される場にもなっています。また、地域の老人会に管理者が出向いて認知症についての話や体操(軽い運動)の指導をされるなど、地域との係わりを深めておられます。</p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き生きと働けている	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	拠点会議の場で地域密着施設の役割説明をし、運営推進会議はほほえみ防府のフロアにて開催しており、職員は利用者の介助に携わりながら参加している	ミーティングで話し合い、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を作っている。共用空間に掲示し、理念を共有して日々の実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のお誘いによって、地域の盆踊りや公民館での催しなどに出向くことがある	自治会に加入し、地域の盆踊りや公民館の催しに参加し交流している。職員は地域の清掃作業に参加している。管理者は地域の老人会に出向いて、認知症についてなどの講座を開いている。地域のボランティアの訪問があり、オカリナ演奏や踊りを楽しんでいる。事業所は「子ども110番」となっており、小学生が学校帰りにトイレを借りて立ち寄るなど、利用者と交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には町内会の自治会長、民生委員の参加をお願いし、認知症の施設の役割を知ってもらっている		
4	(3)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価の及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自社の自己評価において、要改善と指摘された項目はただちに改善に取り組み再評価を受けた際、改善が認められるよう努力している	管理者と計画作成担当者で話し合い、自己評価を行っている。項目によっては職員に聞くなどしているが、評価の意義を理解して全職員で取り組むまでには至っていない。	・評価の意義の理解 ・全職員での取り組み
5	(4)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(偶数月)に開催している。利用者ご家族、地域自治会の方、行政の方の参加要請をし活動状況報告及び意見交換を行っている。	地域の人(民生委員、自治会、老人会会長)、家族、行政などが参加して2ヶ月に1回開催している。事業所の状況報告、行事活動報告、外部評価結果の報告、火災訓練の報告などとし、地域行事の案内、夜間訓練についてなど、意見交換をし、出された意見を運営に活かしている。	
6	(5)	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険上の疑問は市の担当者に随時質問し、指導を仰いでいる。	電話、FAX、メールなどで日頃から連絡を密に取り、困難事例の相談をし、助言を得たり、情報交換をしている。市の依頼で管理者が地域に出向いて、認知症に関する講座の講師をしている。	

ニチイのほほえみ防府

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する拠点内研修を実施し、スタッフの認識を促すように努めている。拘束の必要性のある利用者に関しては身体拘束委員会を開き「拘束」の可否を検討している。	マニュアルがあり、職員は研修を受けて身体拘束をしないケアについて理解し、実践している。外出傾向を把握し、ゴミ出しや散歩など外と一緒に出かける支援をしている。	
8		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拠点内研修を実施している。		
9		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用している入居者がいるので必要性などは業務の中で理解している		
10		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設の見学及び事前説明を実施している。契約書は管理者あるいは介護支援専門員が取り交わしを行っている。		
11	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明第17条に明記し、契約時に口頭説明を行っている。また、定期的を実施している運営推進会議の場で意見交換、要望などを聞いている。	面会時、運営推進会議時、電話、家族交流会などで意見や要望を聞く機会を設けている。相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、重要事項説明書に明記して家族に周知している。	
12	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月拠点会議を実施しており、スタッフ共通の意見などを聴くように努めている。	月に1回の拠点会議で聞いたり、管理者やユニットリーダーが個人面談で聞いたりしている。会議等で出された意見を運営に反映させている。(利用者のオムツはずしの取り組みの工夫)	
13		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの面談を随時実施し、スタッフ個々の意見吸い上げの場としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	支店レベルでの研修会にはローテーションを組みまんべんなくスタッフが参加できるようシフト調整をしている	外部研修は勤務の一環とし、段階的に参加できる機会を提供している。月1回のミーティング後に30分程度テーマを決めて内部研修を行っている。働きながらトレーニングしていくことを進めている。	
15		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所・グループホーム連絡協議会に参加し、ブロック研修などに参加。研修会(救命救急法)の立案、計画実施		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人及び家族の面接及び施設見学を計画、実施している。		
17		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時に本人や家族の要望を聞き取りをしている。		
18		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員によるアセスメント		
19		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を介護を受けるだけの立場に置かず、手伝うことのできることはやってもらう。また、スタッフと一緒に作業する。		
20		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族それぞれの意見、要望を聞き取り、関係調整に努める。		

ニチイのほほえみ防府

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事・誕生会に家族を誘い、可能な限り冠婚葬祭へ参加できるよう支援している。	馴染みの美容院に行っている利用者はいるが、これまでの地域社会との関わりは稀薄になっており、馴染みの人や場との関係継続が難しくなっている。	関係継続の支援の工夫
22		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を見極めた上でリビングでの席を決めたり一緒に活動する機会を作るなど配慮している。		
23		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	フォローの電話をかける。入院の場合はお見舞いに行く		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で入居者の言葉に耳を傾け、希望や意向を汲み取るよう努め、家族にも相談している。	日常の関わりの中で聞きとり、センター方式を活用して把握に努めている。6ヶ月ごとに新しい希望、意向を書き加えて情報を増やしている。困難な場合は家族から聞いたり、利用者の行動や表情から汲み取り、会議で本人本位に検討している。	
25		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式によるアセスメントを実施して把握に努めている。家族や友人、知人など機会があれば話を聴いている。		
26		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	穏やかに過ごせる居場所作りに努め、その中でできることは本人に行ってもらうケアを心がけている。		
27	(12)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回ホーム会議でS担当者会議を行い、入居者、家族の意見とスタッフよりの情報なども加味した計画作成を行っている。	利用者や家族の意向、医師や訪問看護師の意見などを参考にして、月1回担当者会議を行って話し合い、意見を反映して現状に即した介護計画を作成している。3ヶ月、6ヶ月に1回モニタリングを行っている。	

ニチイのほほえみ防府

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録を通してケアの見直し、日常生活支援シートを作成しスタッフ間で情報共有している。		
29		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療、訪問看護など医療的監理、出張散髪の利用、行事の際、地域ボランティア（オカリナ、大正琴など）の受け入れしている。		
30		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じ、権利擁護事業や後見人制度を利用し、入居者の生活を支えている。		
31	(13)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医による定期往診（1回/2週間）と元々のかかりつけ医への定期受診の介助などを行っている	本人や家族が希望するかかりつけ医や協力医療機関への受診を家族と協力して行っている。家族の同行が不可能な時には職員が行っている。協力医による2週間に1回の往診があり、適切な医療を受けられるよう支援している。	
32		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護師が来所した際、健康状態に関する情報提供を行い、また相談し、必要時は医療機関へつなげるよう支援してる。		
33		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院施設への介護サマリーの提供と、退院時は退院時サマリーを入院施設よりもらう。主治医、病棟師長、SW、家族と相談を密にし、退院後の生活に支障のないよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合の処遇を家族と話し合っておき、提携医や訪問看護師の協力体制を整えるなど相互の調整を図るように配慮する	重度化した場合は、医師、訪問看護師、家族、関係者と話し合い、方針を共有している。ターミナルケアはしない方針で医療機関等への移設の支援をしている。	
35	(15)	事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	転倒、行方不明に関するマニュアルはいつでも閲覧可能な場所に置いている。また研修のテーマとしてスタッフ間で検討している。救命救急法の講習を受講し現場での実践に備えている	ヒヤリはっと事故報告書に記録して、対応策を検討し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。全職員で介護現場で実際に役立つ救急救命法(2時間)の訓練の実施をしている。継続して実施していく予定があり、職員の意識の向上につながっている。	
36	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を置き、避難訓練を2回/年実施、訓練時は地域への周知も行い訓練参加を促す	年2回、利用者も参加しての避難訓練を実施している。運営推進会議時に地域に協力を得る働きかけをしている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内での研修でプライバシー保護や接遇について学び、日々の言葉かけや対応に留意している。	職員は内部研修で学び、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないことを徹底している。言葉かけや対応について気づいた事があれば、ミーティング時に管理者が指導している。	
38		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を知った上で、選択肢を示し、本人自身が決め易いように助言する。		
39		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ひとりひとりの食事、睡眠、排泄の時間、生活習慣、生活のリズムの把握に努め、得意なこと、できることなど、現有能力を発揮できる場面を提供できるよう支援している。		

ニチイのほほえみ防府

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容(整髪、化粧)などこれまでの習慣が継続できるよう、環境を整えている。		
41	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に決めたり、調理の下ごしらえや盛り付け、食器の片付けなど行ってもらっている。食事時はスタッフが同席し援助している。	栄養士の指導を受けた献立で、三食とも事業所で食事づくりをしている。テーブル拭き、盛り付け、後片づけなど、利用者も一緒に行っている。季節感があるものや、郷土料理などで食事が楽しめるよう支援している。	
42		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士の指導を受け1500kcal.で提供している。入居者個々に食事及び水分摂取量をチェックし、各人の嗜好にも配慮している。		
43		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ひとりひとり見守りあるいは、介助しながら口腔ケアを実施		
44	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	できるだけ、本人の意思表示と能力を考慮しながら、また排泄の間隔を把握して定期的なトイレ誘導を実施	排泄チェック表を活用して、一人ひとりのパターンを把握し、声かけをして誘導するなど、トイレでの排泄の支援をしている。	
45		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者各人の食物や内服薬の腸への影響を把握し、排泄に関する情報をスタッフ間で情報共有、調整を図っている。		

ニチイのほほえみ防府

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日14時～17時で可能。入居者の希望や体調を確認し介助にて入浴を実施している	入浴は毎日、14時から17時の間に行われている。利用者の希望や状態、タイミングに合わせて、ゆっくり入浴が楽しめるように支援している。入浴をしたくない人には、職員を変えてみたり、タイミングをずらすなど工夫している。	
47		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前夜の睡眠状態、あるいは体調によって午睡を促したり、日中長時間睡眠をとることのないよう(昼夜逆転を来たす)起床を促し、生活リズムを整える。		
48		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人記録にファイルし、いつでも確認、共通認識できるよう配慮。薬剤師による薬の管理と副作用などの説明。内服介助はひとりひとりの飲み込みの状態に応じて、確実に服用されるようにしている。		
49	(21)	活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの生活歴を把握し、会話の糸口とするが、ちょっとした変化に注意し、否定語をできるだけ使わない、肯定的な言葉で話す、ほめる、何かの行動に対してスタッフが礼の言葉を述べるなどその人の存在を認める。	新聞の広告を見たり、テレビを観たり、歌を歌ったり、歌体操をしたり、家族交流会を季節の行事(七夕、クリスマス会、節分など)に合わせて実施し、一緒に準備や食事をするなどの楽しみごとや活躍できる場面づくりをして張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出援助はスタッフの配置で可能な場合は実施している。また、遠出の場合は計画を立てて実施するようにしている。	散歩、買い物、ドライブ、季節ごとの花見など、戸外に出かけられるように支援している。家族と外食を楽しむ利用者もある。	

ニチイのほほえみ防府

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はホームの金庫にて保管管理している。、買い物に出かける際、お金を使う機会を作っている。		
52		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親戚、知人の面会や手紙のやり取りは自由にできる。投函はスタッフが行う。誕生日のプレゼントや宅配が届いた際には電話をかけたり、遠方の家族へは行事参加時の写真や本人のメッセージを送っている。		
53	(23)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備のため定時、随時の掃除やシーツ交換を実施。換気も行い空調に努めている。季節に合わせた壁飾りの貼り絵を利用者と共に作成している。	広い窓から、近くの家や住宅が眺められ、季節の移り変わりを感じることができる。室内は明るく、音や換気にも配慮している。台所から調理の音や匂いがしており、五感刺激につながっている。壁には利用者と一緒につくった季節に合った貼り絵や、利用者の笑顔の写真が飾ってあるなど居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は40.87平方mと狭いため独りになれる空間の確保は難しいため、希望ある場合は居室で過ごしてもらい随時居室訪問している。入居者それぞれお気に入りの場所があるが人間関係によっては席を替えるなど配慮している。		
55	(24)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家庭で使い慣れた小タンスなどを持ち込んでもらい、できるだけ早期に環境に慣れてもらうように配慮している。	テレビ、机、椅子、小タンス、写真、作品、ぬいぐるみやドライフラワーなど、使い慣れた物や好みのものを持ち込んで、居心地良く、落ち着いて過ごせるよう配慮している。	
56		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリー、廊下、食堂、脱衣所、浴室には手すりを設置し日常生活動作ができるだけ自力で行えるようにしている		

2. 目標達成計画

事業所名 ニチイののほほえみ防府

作成日：平成 22年 9月 21日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	・評価の意義の理解 ・全職員での取り組み	・全職員で受けた評価を理解する。	・拠点ミーティング(9/15実施)にて受けた評価を職員に報告し、いつでも評価を閲覧可能な状態にしておく。	0.5ヶ月
2	21	・関係継続の支援の工夫	・地域との関わりの構築 ・入居前の居住区域からは離れた状態であり、家族との交流も頻繁とはいかない現状がある。	・行事・誕生会・運営推進会議など家族にはできるだけ来訪いただけるよう、案内を続ける。また、現在住居している地域での新たな関係を構築するべく、地域の行事参加、施設の見学や相談の受け皿となるよう告知していく。	3ヶ月
3		・以前とは比較にならない、場合によっては重篤な状態をもたらす感染症の台頭によって、高齢者は常に危険にさらされている	・健康管理	・利用者(スタッフも)の健康管理に留意し、異常の早期発見に努める。 ・重篤な常態に陥らないよう、家族への病院受診を指導する。	12ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。